

環境報告書

(ISO14001:2015)

期間： 2022年4月1日 ～ 2023年3月31日



2023年4月28日作成



株式会社シーピーアール
CPR飯山工場

環 境 方 針

株式会社シーピーアールCPR飯山工場は、当社の業であるリサイクルパレット製造業務において、環境保全への取り組みを最重要課題の一つとして捉え、環境負荷を低減して地球環境の保全並びに環境汚染防止に寄与するため、以下の「環境方針」を定め、これに基づいた経営活動を行います。

1. 業務を適正かつ安全に行うために、法律や条例及び利害関係者との同意事項を遵守します。
2. 環境管理体制を整備し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
3. 環境汚染の未然防止及び環境負荷の削減を図ります。
4. 以下の項目について優先して活動し、環境保全に取り組みます。
 - ・電力量の削減による省エネの推進
 - ・従業員並びに工場見学者に対し、プラスチック製容器包装のリサイクルに関する啓発活動の実施
 - ・廃棄物の再利用並びに用途開発による産業廃棄物削減の推進
 - ・排水の有効利用と総排水量の削減
5. この環境方針に沿って、環境に対する目的・目標を定め、見直しを行います。
6. 環境方針を全社員に周知徹底し、自主的・積極的に実行します。

本方針は、ISO 14001-2015全体の取組状況を評価し、環境変化に適合するため、定期的に見直しを行います。
また、社外の関係者より要請のあった場合は公表します。

2021年4月1日

株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦

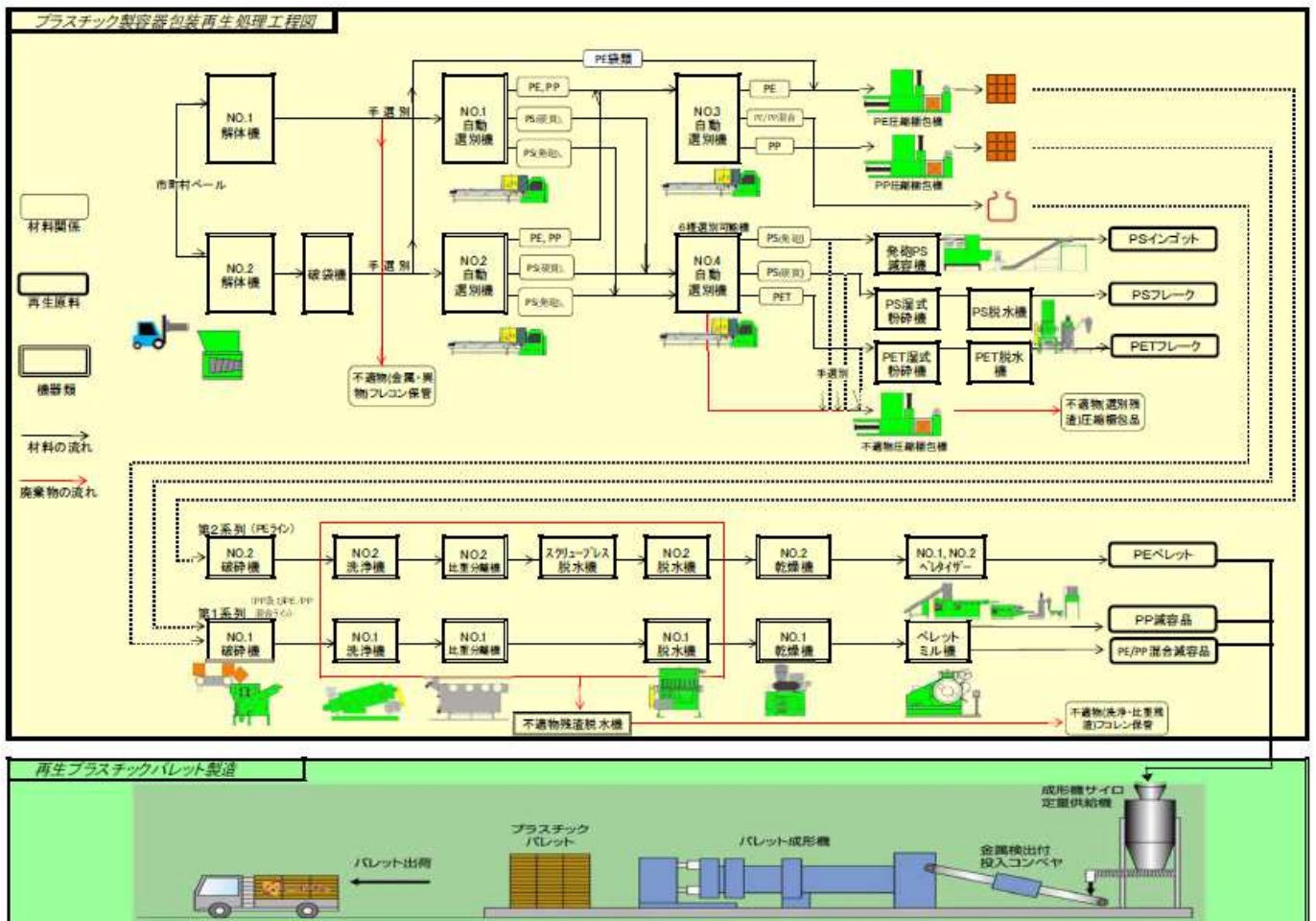
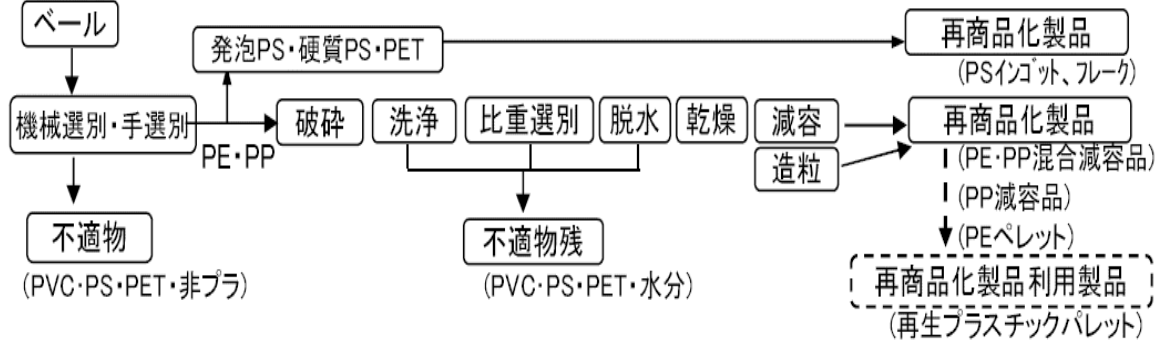
I. 事業の概要

1. 事業所名及び代表者氏名
株式会社シーピーアール
代表取締役 鷹見 善彦
2. 法人設立年月日
昭和43年6月6日
3. 資本金
2, 0 0 0 万円
4. 所在地
〒3 8 9 - 2 4 1 8
長野県飯山市大字寿5 0
5. 環境保全に関する責任者及び担当者
責任者 代表取締役 鷹見 善彦
担当者 環境管理責任者 森山 卓也
事務局 木鋪 達明
中曽根 由香
6. 連絡先
電話 : 0 2 6 9 - 8 1 - 2 1 7 4
F A X : 0 2 6 9 - 8 1 - 2 1 8 0
E-m a i l : iiyama@cpr-net.jp
7. 事業活動の内容
廃プラスチック(一般廃棄物) のマテリアルリサイクル及び、資源循環型パレット製造・引き渡し
8. 事業の規模 (2022/実績)
プラスチック製容器包装再生処理量 : 14, 737 t /年
プラスチック製容器包装再生処理能力 : 96 t /日 (29, 280 t /年)
リサイクルパレット生産量 : 368, 449枚/年 (6, 736 t /年)
リサイクルパレット生産能力 : 1, 05 k g /h r
売上高(CPR飯山工場) : 百万円
従業員数 : 62 名
敷地面積 : 16, 283 m²
建屋面積 : 6, 103 m²
9. 事業の開始
平成18年4月1日
10. 許可の内容
一般廃棄物処理施設設置許可証
許可年月日 : 平成1 7 年 2 月 2 4 日
一般廃棄物処理施設変更許可証
許可年月日 : 平成2 8 年 7 月 2 2 日
許可番号 : 第0 4 - 1 7 4 0 1 号

11. 再生処理工程図

材料リサイクル

(プラスチック製容器包装)

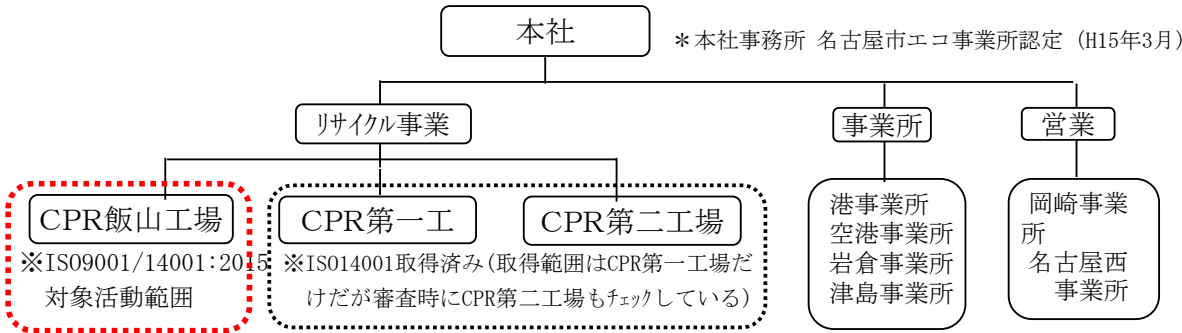


12 対象範囲及び組織

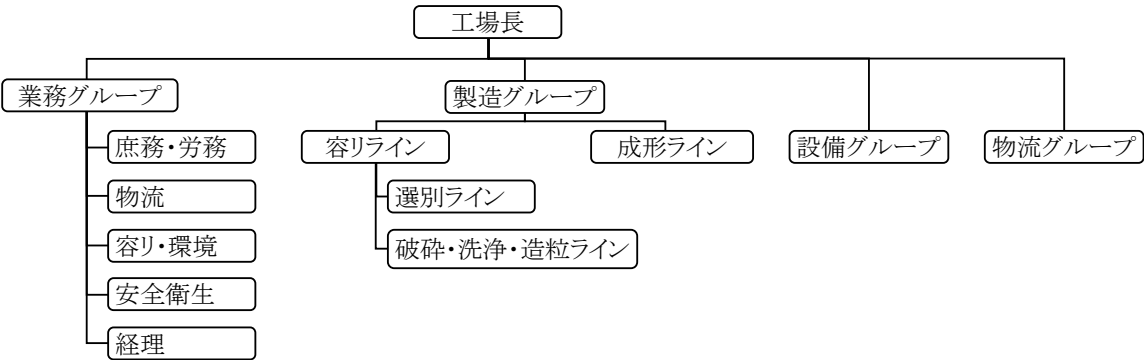
(1) 対象範囲

対象事業所：株式会社シーピーアールCPR飯山工場
対象活動範囲：プラスチック製容器包装一般廃棄物処理業、リサイクルパレット製造業

(2) 全社組織図



(3) CPR飯山工場組織図 (2022年度)



2022年度 ISO14001体制表



Ⅱ．環境目標とその実績 (2022年4月～2023年3月)

2022年度は、ISO14001:2015によるマネジメントシステムの更新を経て、品質・環境を統合してより一体感を増して、品質・環境統合のマネジメントシステムをすすめてきた。
前3年間に引き続き、各負荷物質の実数と原単位の両建てで目標設定と進捗管理を行い、中期5か年で累計3%の原単位改善（＝単年度は0.6%改善）を規準に取り組んできた。
管理すべき負荷物質は変更なく、管理物質は追加していない。
目標および結果は次の通り。

【物質投入予定量と実績】

	項目	単位	予定量	実績
総物質投入量	原料ベール投入量	t	15,000	14,720
	パレット原料投入量	t	7,000	6,856
	(合計)	t	22,000	21,576

【環境目標と実績】

環境方針		環境目標 (2021年4月～2022年3月)	実数目標	実績
1	省エネ・CO2削減	電力使用量の削減 (前年比▲0.6%)	8,390,573kwh以下	7,673,423kwh
2		ガソリン使用量の削減 (前年比▲	14,410ℓ以下	11,210ℓ
3		フォークリフト燃費向上	0.36h/ℓ以上	0.412h/ℓ
4	廃棄物の排出抑制	廃棄物全体の削減 (前年比▲0.6%)	8,085t以下	7,929t
5	総排水量の低減	上水使用量の削減 (前年比▲5.0%)	47,542m ³ 以下	46,321m ³
6	化学物質投入量の削減	75%硫酸の削減	460kg以下	60kg
7		ポリ塩化アルミニウムの削減 (前年比▲0.6%)	25,500kg以下	23,000kg
8	不良製品の削減	パレット成形不良の削減	不良率1.7%以下	0.95%
9	グリーン購入の推進	事務用品、資材の再生品利用推進	事務用品のグリーン購入比率90%	—
10	環境教育/社会貢献	社員教育の実施	2回/年	2回/年
11		地域環境活動への参加	1回/年	0回/年
12		工場見学者へのリサイクル啓発活動	300人/年	58人/年

上記項目について、目標値及び2021年度と比較し、以下に検証を行う。
なお比較に当たっては、2021年度実績・2022年度目標・2022年度実績とも資源の投入量(原料ベール入荷量、リサイクルパレット製造量)の実数値が異なる為、資源投入量当り＝「原単位」の環境負荷を算出し、比較することとした。

1. 実績 (環境負荷の取りまとめ表) ※電力の排出係数は中部電力の0.516kg-CO2/kwhを使用している

		単位	2021年実績		2022年目標		2022年実績			
			実績	物質投入 1t当り	目標	物質投入 1t当り	実績	物質投入 1t当り	2021 対比	目標 対比
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	84,444,281	4,182	82,479,333	3,749	75,429,748	3,496	84%	93%
	化石燃料	MJ	456,796	22.62	498,586	22.66	387,866	17.98	79%	79%
総物質投入量	原料ベール投入量	t	13,582	—	15,000	—	14,720	—	—	—
	パレット原料投入量	t	6,608	—	7,000	—	6,856	—	—	—
	(合計)	t	20,190	—	22,000	—	21,576	—	—	98%
水資源投入	上水道	m ³	42,780	2.12	47,542	2.16	46,321	2.15	101%	99%
温室効果ガス排出量	購入電力排出量	Kg-CO ₂	3,925,843	194.44	3,834,492	174.30	3,506,754	162.53	84%	93%
	化石燃料排出量	Kg-CO ₂	31,062	2.29	33,904	2.26	26,375	1.79	78%	79%
受託した一般廃棄物の処理量	収集運搬量	t	0	—	0	—	0	—	—	—
	中間処理量	t	13,582	1.00	15,000	1.00	14,720	1.00	100%	100%
	うち再資源化量	t	6,618	0.49	7,500	0.50	6,856	0.47	96%	93%
	最終処分量	t	0	—	0	—	0	—	—	—
	中間処理後の産廃	t	7,075	0.52	8,250	0.55	7,807	0.53	102%	96%
廃棄物等総排出量	再使用・固形燃料	t	5,660	0.42	6,600	0.44	6,246	0.42	—	—
	熱回収	t	354	0.03	450	0.03	390	0.03	102%	—
	単純焼却	t	0	—	0	—	0	—	—	—
	その他利用	t	1,061	0.08	1,200	0.08	1,171	0.08	—	—
	(合計)	t	7,075	0.52	8,250	0.55	7,807	0.53	102%	96%
総排水量	公共用水域	m ³	0	—	0	—	0	—	—	—
	下水道	m ³	40,186	2.96	44,689	2.98	46,708	3.17	107%	107%
化学物質削減	硫酸	kg	100	0.01	460	0.03	60	0.00	55%	13%
	PAC剤	kg	17,000	1.25	25,500	1.70	23,000	1.56	125%	92%
不良パレット削減	製品不良率	%	1.0	—	1.50	—	0.95	—	—	—

2. 全体評価

ISO14001:2015へ移行し、昨年度初めて更新を経た本年は、規格要求事項や自社「統合マニュアル」の規定に沿っての活動を行ってきた。
工場従業員の中で新型コロナの感染が夏季、冬季にあったため、活動が縮小した部分があったが、ブラ新法に基づく新制度の実施を翌年に控え、原料ベール内容の多様化に対応することと同時に原料15,000 tの実現、製品パレットの増産を目指すための安定的な稼働と環境負荷の軽減が課題であった。上流から下流へ原料を生産し、パレットを生産する中で、仕掛やパレット原料・副原料など過剰在庫や不足等が起きないように、処理量・生産量をもって流量調節を行いつつ、稼働効率を高く維持できるような工夫や取り組みを考えていく必要がある。

(1) 電力使用量の削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

原単位目標3,749MJ/tに対し実績3,496MJ/t。電力使用に関して目標は達成した。
昨年度に引き続き、原料ベールの入荷が不安定な時期や、社内の新型コロナ感染が発生したことで高効率なフル稼働を難しくする部分があったが、年度途中で採用した成形部門の2交代制
昨年度から導入した脱水減容機、及び造粒ラインを停止し、パレット原料の生産を混合減容品のみの製造に切り替えたことにより、電力使用量の削減効果を見せた。

(2) 化石燃料の使用削減（省エネルギー、CO₂排出削減）

フォークリフトの燃料(ガソリン)が圧倒的な燃料使用割合で、他には事務所棟の冬季暖房(灯油)、除雪重機の燃料(軽油)、給湯のガス(LPG)のみである。
バッテリー駆動のフォークリフトが大半を占めるようになり、ガソリン駆動のものはほぼ物流部門で使用されるものになった。ガソリンの消費の絶対量が削減されたと同時に、オペレーターの省エネ走行・作業の取り組みによって目標達成している。
なお、新型コロナ対応の為、従業員休憩室を通常の食堂の他複数開放し、そのそれぞれに暖房及び換気を徹底したため、灯油消費量は例年より多くなっているが、大勢に影響はない。

(3) 廃棄物の排出抑制

年間総排出量が7,929 t、実数目標比102%、原単位実績0.37 t/t。※事業特性上、製品収率がほぼ一定である為、その裏側の廃棄物発生率も一定に近くなる為、原単位目標は設定していない。
容リ部門・成形部門ともに正常範囲内の産廃発生量で推移している。
産廃ベール・フレコン梱包用のストレッチフィルム芯を回収し再利用するなど、部門ごとに小さなことから排出抑制が行われているが、大勢に影響の出るほどの効果は見られない。
現状、主要委託先において、2社ほど委託量の制限を受けているが、問題は生じていない。

(4) 上水道の使用量削減、化学物質投入量

上水は原単位目標2.16m³/tに対し実績2.15m³/tで目標達成。下水放流量も3.17m³/tでほぼ達成。
薄硫酸使用は60kg、PAC剤は23,000lで計画比92%、いずれも管理目標をクリアした。
但しこの項目は、使用水・放流水の水質、製品の品質、機器の正常稼働に密接に関係する物質であり、必ずしも「削減」ではなく、「あるべき姿」である事を重視している。

(5) 製品不良率

目標1.5%、実績0.95%（いずれも試験品ロットアウトを含む）。2022年度の目標管理は昨年度に引き続き、「維持目標」として不良率1.5%を設定した。
主に自治体由来の汚れや低品質が成形不良に直結しており、入札の不安定さを考えると、闇雲に前年比改善を目標には設定できない為、維持目標で管理する方式に変更した。
実績としては、上流工程において原料投入の組合せを工夫するなどして成形原料の安定化を図るなどの取り組みにより不良率は低い水準で抑えられている。

(8) 環境教育・社会貢献活動

- ① 全従業員を対象とした環境教育を2回実施した。（7月・12月） *いずれもコロナ対策で掲示
- ② 各自治体への環境啓発活動としての工場見学の受け入れは、新型コロナの影響で視察を申し込む団体がほとんど無く、目標の300人に対し58人であった。

- ③ H25年度から地域貢献活動への参加として、飯山市主催のゴミ拾いに参加してきた（「いいやまクリーンアクション」）が中止となり今年度は社会貢献活動は無し。
- ④ 環境関連のイベントとして、「信州中野環境祭」（9月：中野市）も毎年参加してきたが、2022年度も開催そのものが中止になった。
他、イベント自体の数が極端に減っており、市民への啓発活動として参加する機会を得ることができなかった。次年度以降、ウィズコロナの啓発活動を模索していく必要がある。

Ⅲ 環境活動取り組み内容と結果

本年度の環境活動計画は、昨年度の活動項目も継続しつつ、新たに項目を追加して実施した。環境活動のそれぞれの取り組みに対する評価を以下に記載する。

（評価 ○：ほぼ100%実施 △：30～80%実施 ×：殆ど未実施）

1. 省エネルギー及びCO2削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	事務所棟、選別室の冷房温度適温化(冷房28℃)	○	実施中
②	工場内、事務所棟、不要時の消灯	○	実施中
③	空調機のフィルター清掃	○	実施中
④	デマンドコントローラーによるデマンド監視	○	実施中
⑤	Vベルトの省エネベルト化（定期交換時に順次省エネベルト化）	○	実施中
⑥	成形機チラーの夜間1台運転化 → 常時1台運転（11月より3月迄）	○	実施中
⑦	グリーンカーテンの実施(6月より10月迄)	×	中止
⑧	省エネモーターへの切り替え（既存モータ故障時）	—	該当なし
⑨	設備毎のデマンドコントローラーによる対応	○	実施中
⑩	フォークリフトのアイドリングゼロ化	○	実施中
⑪	ラウンド配送によるトラック走行km数削減	○	実施中
⑫	事務所棟の暖房温度適温化(暖房20℃)	○	実施中
⑬	紙使用量の削減（コピー枚数削減、裏紙再利用）	△	実施中
⑭	フォークリフト単位運搬量の増加による走行時間減	○	実施中
⑮	フォークリフトの号機別燃費管理及び充電式フォークリフト更新（新）	○	実施中
⑯	成型機PLC国産化によるヒーター関連制御改善	○	実施済
⑰	ペレット押出機1台更新による稼働時間の削減	○	実施済

2. 廃棄物の排出抑制

No.	活動内容	評価	活動状況
①	産廃の分別廃棄の奨励と適正保管・排出	○	実施中
②	充電式電池の使用奨励	○	実施中
③	汚泥の水分率削減	○	実施中
④	比重残渣の水分率削減：ツイスターのロータ交換実施	○	実施中
⑤	洗浄残渣の水分率削減	○	実施中
⑥	金属くずの有価販売	○	実施中
⑦	ペレタイザー停止時に使用するオイルの廃油の再利用	○	実施中
⑧	規格外品の有価販売による廃棄物の削減	○	実施中
⑨	容リライン 収率アップ	○	実施中

3. 総排水量の削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	バルブ調整により水量・水圧の節約	○	実施中
②	上水供給バルブの開度の適正化（リサイクル水割合増）	○	実施中
③	スクリーン洗浄機の上水 → リサイクル水への切り替え	○	実施中
④	リサイクル水 使用率 50%（目標）	○	実施中

4. 化学物質の使用量削減

No.	活動内容	評価	活動状況
①	（75%硫酸）硫酸注入のPH設定レベルの適正化	○	実施中
②	（PAC剤）濃度の適正化	○	実施中
③	化学物質使用量・保管料を記録・管理する	○	実施中

5. 自社製品・サービスの環境配慮

No.	活動内容	評価	活動状況
①	中和剤の使用率削減	○	実施中
②	減容品の品質の向上（水分、異物、主成分、その他）	○	実施中
③	自社 金型メンテナンスによる不良率低減	○	実施中
④	金型構造の改造による不良率低減	○	実施中

6. グリーン購入の推進

No.	活動内容	評価	活動状況
①	対象品のグリーン購入比率90%以上	○	実施中

7. 環境教育・社会貢献

(1) 教育・研修

年2回のISO14001ー社内教育を実施した。

1回目（7月）： 1. 2021年度実績、環境目標達成状況
2. 2022年度環境方針
3. 2022年度環境目標
4. 2022年度環境活動計画
5. 2022年度目標に対する進捗状況

2回目（12月）： 1. 2022年度実績、環境目標達成状況
4. 2022年度環境活動計画
5. 2022年度目標に対する進捗状況

(2) 落札自治体への環境への取組みのアピール

3月の自治体あいさつ回りにて、2020年度版環境活動レポートを市（町村）担当に配布し、取組みをアピールした。（工場見学も”可能であれば”同時におすすめした。

(3) 工場見学受け入れ

2022年度は58名。昨年度はほぼなかった工場見学申し込み数は今年も回復せず。市民に対する啓発活動の機会が著しく少ない一年であった。

2022年度	本年度		累計	
	件数	人数	件数	人数
官庁関係	4	15	233	968
自治会	3	14	114	2,063
企業	16	29	450	1,200
一般市民・学校	0	0	58	884
その他団体	0	0	55	161
累計	23	58	910	5,276



地元小学生の見学状況（2019年度）

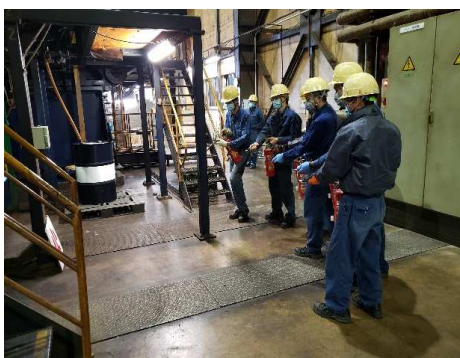
自治体からの工場見学状況（2019年度）



(5) 異常事態訓練

工場全体で実施した総合火災訓練と、各工程ごとに想定される異常事態の訓練とで計4回実施した。

実施日	訓練内容	参加人数
9月27日	ガソリン漏出防止訓練	7名
11月7日	総合避難訓練	30名
11月28日	硫酸漏洩事故対応訓練	7名
2月20日	成型機オイル漏洩防止訓練	9名



IV. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

関連法規の遵守のため、関連法規を取り纏めた一覧表を作成し、毎月チェックした。
2006年4月の工場稼動以後、環境関連法規等の遵守状況については毎月1回点検を実施しており、環境関連法規等を遵守していることを環境管理責任者が確認を致しました。
また、飯山市及び近隣地域との公害防止協定も締結し、公害防止に万全を期しております。
H24年度から実施している法規制外の自主測定、自主管理項目の
・脱水汚泥、比重分離残渣、洗浄残渣の水分率測定（廃棄物の排出抑制）
・工場周辺の騒音、振動、臭気、粉じん測定（周辺環境保全）
については、2022年度も毎月測定し、異常の無いことを確認しています。

2022年4月1日～2023年3月31日	環境に関する違反及び訴訟	無し
	環境に関する外部からの苦情	無し

V. 代表者による全体評価と見直しの結果(下半期・

株式会社シービーアール C P R 飯山工場

評価対象期間：2022年10月～2023年3月

2022年度 第2回マネジメントレビュー (QMS/EMS)

品質/環境 管理責任者の報告とコメント (レビューへのインプットより)	代表者による評価と見直し
①前回までのマネジメントレビュー結果に対する処置 【統一】 ◆関連会社エコパレット滋賀の業容、利益に遅れを取らない事 ・R 5 年度向け入札における落札量16,000tへのトライ ・パレット生産40万枚以上へ向けた準備 ・従業員一人当たりの生産性拡大(時間ベースでなく人数ベース) ・令和5年度の売上・利益でエコパレット滋賀に追いつく ◆新法・製品プラへの対応(入札～運用準備) ・申し込み自治体に対し的確な入札を行うこと ・新たな区分け管理への対応を年度開始前に完了すること ・新法についてEMS面で対応すべき事を考察すること	・指示後ただちにベンチマーク工場へ勉強に行き、その結果を踏まえ自工場の目標と運用方法を見直し、提案された事は評価する。 ・入札の結果、16000 tには若干届かなかったがほぼ計画の量が取れた。パレット生産は報告があった不慮の事故(失踪)による人員不足を早急に解消し、日曜も生産できる体制を構築する事 【変更の必要性】 (有) 無]
②外部及び内部の課題の変化 【QMS】 ・製品プラ新法の実施に伴う管理方法・手順の変更 詳細について事業者説明会で説明があり、この対応に苦慮した。 帳簿・記録類の管理は協会とも調整し概ね準備できたが、 容りのみ自治体との同時処理が禁止され、在庫スペースに不安。 【EMS】 ・実際の対応として、4市町村・3,055tを落札した。 ・9月によりやく一般廃棄物「処理する廃棄物の内容：に製品プラを追記した許可証を取得できた。他には法的対応事案は無し。	・処理を実際に行う準備は整った。現実には1ヶ月弱、処理している中で危惧された大きな問題は出ていないと認識しているが、まだ扱量が少ない事もあり、引き続き経過観察していく事。 【変更の必要性】 有 (無)]
③目標達成の状況と活動内容・結果 【統一】 令和4年度の目標に掲げた事項はほぼ達成できたと認識している。 但し収支については電気代高騰の影響と突然の3名欠員の影響が出て目標利益は僅かに未達となった。 【QMS】 ・パフォーマンス評価で目標未達となった項目はほぼ無い。収率の未達は人員不足への対策として再品の生産量を落とすとした為である。 【EMS】 ・環境管理目標(電力、水、廃棄物、化石燃料、化学物質、不良率)は別紙のとおり。脱水減容機導入と押出機中止が奏功した。	・電気代高騰の件はマネジメントの範疇に無く、止むを得ない。 ・パフォーマンス評価だけを見ると達成項目が多いが、今回発生した重大な事故はそれら全てが打ち消されてしまう程の案件であつと認識する事。事故後の対応は別途の報告で確認した。 【変更の必要性】 有 (無)]
④ プロセス監視の結果と異常時の対応 【QMS】 ・12月に実施した容リライン工程の大幅変更については、あくまでも単一工程を前提とし一時避難としての混合減容品のまとめ処理として捉えている。従ってQC工程も従前の規格で監視、異常も無し。 【EMS】 ・下期は、新型コロナ感染対策の一環として、予定されていた集合の環境教育は実施しなかった。※すべての会議体を一時中止。	・単一工程を中止し混合とする事、パレットを中止し減容品のみとする事、いずれも緊急避難的に実施したのであって、その是非の結論づけについては、複眼思考でリスクも含め慎重な判断が必要。 【変更の必要性】 (有) 無]
⑤内部監査 ・下期は、新型コロナ感染対策の一環として各種会議・打合せの縮小、外部見学者の受入れ中止。これに伴い内部監査も実施しなかった。	・コロナ禍解消後は規定の頻度に戻すこと。 【変更の必要性】 (有) 無]
⑥外部審査 第1回マネジメントレビューで報告のとおり	【変更の必要性】 有 (無)]
⑦経営資源への妥当性 【統一】 ・外国人実習生5名がようやく入国したが、そのうち3名が9月と11月に失踪した。次回実習生から「国替え」を行う。 【QMS】 ・設備機器の縮小に伴い、これをマネジメントする人、点検行為、その他も連動して縮小していく。このリストラ事案を新たな価値の創造へと繋げていくべきだが、まだ具体的な行動ができていない。 【EMS】 ・環境側面では騒音・振動・臭気の発生源機器を中止・縮小する方向で進捗しており、現状の妥当性判断で問題は無い。	・国替えについては主幹部署、監理団体も含めてコンセンサスしている。このまま実行で良い。 ・設備リストラに関連する人を活かす方向性は、自社技術者からの教育等も含めての提案が望ましい。管理者育成への具体的な行動が頓挫してる様に感じるので、主幹部署の協力も仰ぎ再構築すること。 【変更の必要性】 (有) 無]
⑧リスク及び機会への取組みの妥当性 【統一】 ・コロナ感染について具体的に休業者多発の事態を招いてしまった。しかし処理・生産には影響はごく僅かだった。 ・人員リスクとして退職者を挙げていたが失踪という形で顕在化してしまった。こちらは処理・生産に影響が出てしまった。 ・新法への対応は入札も含め「準備」期としての対応は完結した。	・懸念された最大業容の完遂について、重大トラブル無く終了した事は評価できる。 ・人と感染症のリスク発生については、防ぎようが無かった面もあり、対策の点で順位1番には来ない 【変更の必要性】 有 (無)]
⑨新年度計画(2022年度) 方針・目標と、リスク・機会 ①過去最大容量の完遂 (落札15,583t パレット410,000枚) ②工程簡略化、省人化によるコスト削減。経営資源再配分 ③区分2自治体の処理完遂と今後の拡大へ向けた問題点抽出 ④改善と、延命・継続の21極の側面に対応した設備・工程改良推進	・次年度計画は妥当と認められる。 ・新プラ法関係で、従前のこの事業の枠組みから外れる動きも想定される。そのマークも怠らない様に。 【変更の必要性】 (有) 無]

代表者による総合評価